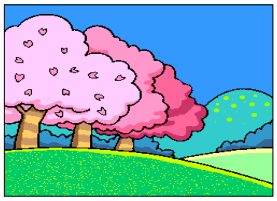
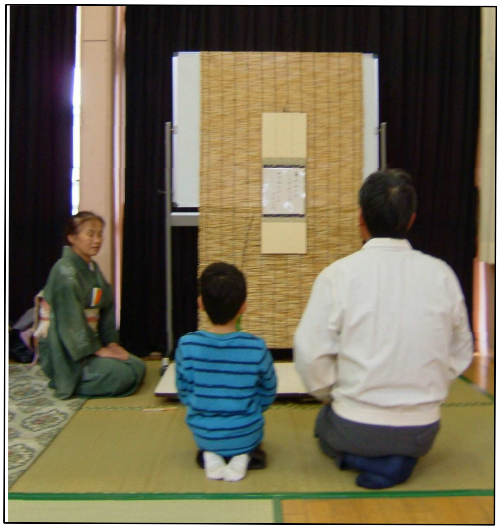
北星会館だより

会う人にやすらぎを別れる人に幸せを



NO89号
平成26年3月25日
西条市壬生川682－1
北星会館発行
TEL. FAX64－0321

第3老人クラブ園児たちと交流



２月２７日、東予中央保育所でお茶会が開催され、交流を重ねている第３老人クラブの皆さんが招待されました。

ひまわり組の年長児は、地域のお茶の先生のご指導で、月に１回お茶のおけいこをしています。日頃お世話になっている地域の皆さんにお礼を込めて、お茶会が開かれました。園児と手をつないで席入りし、お軸とお花を拝見してお抹茶をいただきました。「お茶をどうぞ」「ひかせて頂きます」という言葉や所作に、日頃の練習の成果がみえました。心のこもったおもてなしを受け、幸せな気持ちになりました。

［高齢者を大切に］

わが国では、平均寿命の大幅な伸びや少子化等を背景として、人口のほぼ４人に１人が６５歳以上の高齢者となっております。こうした中、高齢者に対する就職差別、介護者や家族等による身体的、心理的虐待、あるいは無断の財産処分（経済的虐待）などといった高齢者に対する人権侵害が大きな社会問題となっています。

高齢者が生き生きと暮らせる社会の実現を目指して、高齢者についての理解を深め、高齢者を大切にする心を育てる必要があります。

優・友・楽習会

２月１２日開催

人権・同和教育講座

☆ビデオ学習

「親愛なる、あなたへ」

定年退職が近い主人公の男性は、ボランティア活動に熱心な妻の急死により、自分が仕事以外の地域社会のことをほとんど知らなかったことに気づき困惑するのです。

退職後、少しずつ地域の人々との関わりを持ち始め、奥さんが生前どのような活動をしていたのかを知ります。また、自身の心に持つ差別や偏見にも気づき、そのことに苦しんでいる人たちの痛みもわかってきます。そして、主人公は地域の中で自分のできることを見つけて、再生を始めようとするのです。

温かい見守り、相互支援、人と人とのつながりや関わり方を、人権尊重の面から見直すことができました。物語の中の「一歩踏み出せば、できることはいろいろある」「恩送りをしましょう」という言葉がとても心に残りました。

健康教室（済生会西条病院）

☆「薬の正しい服用方法ほか」

☆済生会西条病院のあゆみと

「無料低額診療事業」について説明

今井薬剤師さんから、薬の正しい服用方法やアルツハイマー認知症のこと、インフルエンザ対策について詳しい説明があり、その後、参加者から質問がありました。

☆薬を服用するときの７つの約束

１．毎日決まった時間に服用します。

２．決められた服用量を守ります。

３．病気が治ったと思っても決められた日まで服用し続けます。

４．他の人からもらって服用したりしません。

５．他の人に自分の薬をあげたりしません。

６．前の病気の時にもらった薬は使いません。

７．薬はいつもきちんと整理して保管します。

※副作用が出た場合はすぐに医師・薬剤師に相談しましょう。

※薬は水かぬるま湯で服用します。

平成２５年度西条市隣保館運営審議会開催

２月１８日、北星会館において、西条市の隣保館４館（大町会館・氷見交友会館・河北会館・北星会館）の運営審議会が開催されました。

各館から２５年度事業実施状況の報告と２６年度運営方針及び事業実施計画の説明があり、熱心に審議されました。

教室生人権学習交流会開催

２月２８日、今年度も会館教室生対象の人権学習交流会を開催しました。

茶話会の後、市人権教育協議会の高松賢治さんより、いくつかの事例をあげて、コミュニケーションの場が少なくなっていること、人間関係が希薄になってきていること、相手の立場になって考え、思いやりの気持ちを大切にしましょうと話されました。

２６年度より新しい教室が始まります。皆さんもチャレンジしませんか。

健康体操教室生募集

☆開 催 日 時　毎月第１・第３木曜日　　１３：３０～１５：００
☆講　　師　西山　千恵子先生
（日本エアロビックフィットネス協会公認インストラクター）
☆各自準備物　敷物用のバスタオル（体操用マットがある方はお持ちください）
※第１回目は　４月３日（木）

ふれあいの会参加者募集

岡田寿賀志先生を囲むふれあいの会の参加者を募集しています。
どなたでも参加できます。
地域のみんなが集まり、元気になるよう話をワイワイしましょう。
☆開 催 日 時　毎月第２木曜日　１３：３０～１５：００
※第１回目は　４月１０日（木）

新着本のご案内

○写真集・生きる
　東日本大震災から一年
○泣いた赤おに
○しごとば東京スカイツリー
○襲名犯
○カラマーゾフの妹
○ホテルローヤル
○ロスジェネの逆襲
○無法庵　花往来
○日本の旧家を旅する
○庭
○教場
○月光
○海賊とよばれた男（上）
○海賊とよばれた男（下）

貸し出しができますので、気軽にご来館ください。

私は今でも、あの震災の日の夜、東北の地の夜空にかがやいていた美しい星々のことを思い出す。
神という存在が本当にあるのならと、私はその星を仰いでつぶやいた。
―― なぜこんな酷いことをあなたは私たちになさるのですか。
憤りにも似た、その感情は日が経つにつれ、かたちを変えた。
あの夜、海へ、空へ、帰らざるをえなかった人々にとって、あのかがやきは道しるべにも似た光だったのではと・・・。
今、一年の歳月が流れて、私たちはあの日に起きたこと、あの日からはじまったことが何なのかを、いつも胸の隅にとどめておくことこそが大切なことだと思う。
「生きる」ということは、歴史のただ中に立って歩いていることでもある。
やがて遠い日の記憶に、あの日がなろうとしても、あの日を身体で、こころで感じた私たちは語り継いでいかなくてはならない。
それが「生きる」ことの証でもある。
私たちがたしかにこの世に存在したことは、その精神を語り継ぐことでしか残らないだろう。
生きる。
生きよう。
生きている。
そんな声こそが、この写真展と、写真集の一番の望みのように思える。

―　写真集・生きる　―　より　　伊集院　静

人 権 相 談 日

４月２１日（月）
５月１９日（月）
１３：３０～１５：００

職 業 ・ 生 活 相 談 日

［職業・生活・経営・記帳・その他］
４月１６日（水）
５月２１日（水）
１３：３０～１６：００